

バウビオローグの集い(第 5 回)
—ホールライフカーボンとバウビオロジー—

日 時:10 月 24 日(金)13:30~25 日(土)16:00

会 場:岐阜県立森林文化アカデミー

参加者:バウビオローグ BIJ, 通信講座 BIJ 受講者、BIJ 会員、学生

定員:20 名

主催:(社)日本バウビオロジー研究会 BIJ, 後援:岐阜県立森林文化アカデミー

趣 旨:

ドイツIBNとのライセンス契約に基づき、2011 年に開始した「通信教育講座バウビオロジー」は今まで約 20 名を超えるバウビオローグ(バウビオロジー・アドバイザー)を生み出してきました。今回の 5 回目のバウビオローグの集いを対面で実施し、お互いの経験や知見を共有し、これからの建築のありようを議論したいと思います。

近年、ZEH、ZEB が一般的になり、運用時のエネルギーや CO2 排出量(オペレーショナル・カーボン)はかなり削減されてきました。そうすると、建築時、改修時、解体・廃棄時などのエンボディドカーボンの削減が重要になってきます。つまり、環境負荷を抑える素材の選定や改修しやすい建築工法など、総合的な視点が大切になってきました。

そこで、今年のテーマは建物を一生涯で考える「ホールライフカーボン(WLC)とバウビオロジー」です。

これまでも WLC を算定するツールはいろいろありましたが、入力が煩雑であったり、データが整っていないかったり使い勝手が良いとは言えませんでした。そんな中、国交省支援のもと、ISO21930 に準拠した非住宅版の WLC 計算ツール J-CAT(Japan Carbon Assessment Tool for Building Lifecycle)が昨年公開され、住宅版も準備中です。

世界的にも炭素削減のホールライフカーボンに注目が集まる中、バウビオロジー的な居住環境の視点をどのように組み合わせていくのか、バウビオローグの方々と知見を深めたい。

内 容:

- ・話題提供:実践者の報告(それぞれ 15 分程度)
- ・専門家のセミナー
- ・ディスカッション「ホールライフカーボンとバウビオロジー」

参加費:5,000 円

- ・夕食は実費(3000 円程度を現地で集める予定)

宿泊:緑風荘(会場のアカデミーから徒歩 15 分) 朝食付き 7,000 円程度
(部屋によって多少変化します)

スケジュール(案)

■一日目

- 13:30～ 趣旨説明(バウビオローゲの集い)
石川恒夫(Baubiologe IBN)
- 13:40～ バウビオローゲの報告(予定)
20～30 分程度×3～4名程度
阿部哲志(岩手県庁)
「バウビオロジー住宅とアフォーダブル住宅」
落合伸光(家づくり工房合同会社)
「タイトル未定」
出席者の自己紹介(出身、普段の仕事、バウビオロジーとの出会い・期待すること)
- 16:00～ 専門家セミナー(1 時間ほど)
坊垣先生「ホールライフカーボンとは(仮)」
質疑+ディスカッション
- 18:00～ 食事会+懇話会(学生が調理予定)

■二日目

- 9:00～ バウビオロジー討論会(3 時間程度)
・話題提供(30 分程度)×2 名程度 候補:
辻充孝(森林文化アカデミー教授)
「ホールライフカーボンの評価事例と課題」
田所憲一(デコス取締役、日本セルロースファイバー断熱施工協会 事務局長)
「脱炭素時代に選ばれる断熱材(仮)」
・ディスカッション「ホールライフカーボンとバウビオロジー」
コーディネーター:辻
・ホールライフカーボンの可能性とリスク
・ホールライフカーボンを意識した建材(木材や断熱材など)の選択は?
・ホールライフカーボンを意識した建築工法は?
・木質資源の炭素固定量について
・ホールライフカーボンの次の視点(文化的視点や精神科学的視点)をどのようにとらえるか?
※参加者がホールライフカーボンについてどのように考えているかを持って参加。
※通信教育講座テキスト 第 5 巻「建材と部位のエコ収支」、第 4 巻「建築工法」が参考
- 12:00～ 昼食
- 13:00～ 希望者に morinos スタッフ(川尻さん)による、森林体験プログラムの実施
川尻さんは、著書として「森の案内人」、「読む植物図鑑」や「木を知る図鑑(監修)」なども手掛けられた森林、林業に詳しい方です。
- 16:00 解散